全体会　パート１

「各地の子どもたちからの報告」

司会：西森さん（中１）・六反田さん（中１）【かわにし平和キッズ】・荒牧さん

■パート１「各地の子どもたちからの報告」

ここでは、各地の子どもが主体となって活動をしている団体からの報告を行いました。また、パネラーや参加者からの質疑応答を行いました。

■荒牧さんのあいさつ、ならびに開会宣言

今日は、子どもとおとなのいい関係というテーマとして、それをつくっていくにはどうしたらいいかということをみなさんで考えていきましょう。重要なことは、子どもの権利を基本において、その関係をつくろうということです。

たくさんのおとなや子どもがいる中で、いい関係をつくろうと実践してきた各地の活動の中での言葉であると受け止めながら、お互いに意見を交換して考えたいと思います。

■神奈川県川崎市「川崎市子ども会議」

「川崎市子ども会議」は、

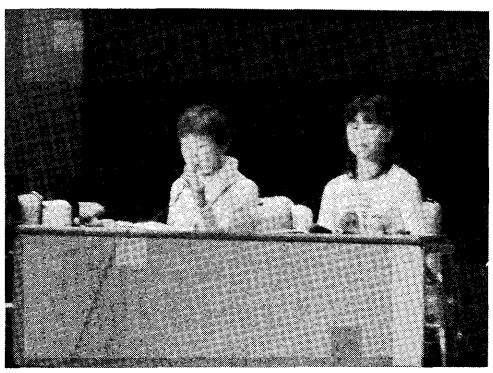
１．人権、環境問題、ユニセフについて考えをまとめて市長さんに要望として伝える。

２．川崎市子ども権利条例について、ゲームやクイズで学習する。

３．川崎市子ども集会を年１度開催します。

「子ども夢パーク」って？

川崎市子ども権利条例に従い、子どもたちが中心になって造った建物です。2003年７月に「子どもたちが好きなように遊びアレンジ(チャレンジ？)していい」場所ができました。室内にはパソコン室や図書室、外にはアスレチックや池、サイクリングロードも。



□煙石さん(12歳)

活動の中で困った時、おとなの人にサポートされると助かりました。だから何でもないときは口を出さず、困った時だけアドバイスして下さい。

□朝比奈さん(14歳)

おとなと子どもでふつうに会話できるのがいい関係

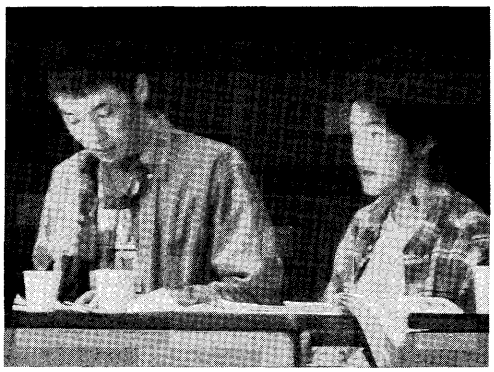
だと思います。子ども会議のおとなの人は、気軽な話し相手になってくれるので、みんなもたよりにしているみたいです。

■岐阜県多治見市　「多治見子ども会議」

「多治見子ども会議」は、

多治見市子ども権利条例(2003年9月にできたばかりです)の前文を、小学生にもわかりやすいように僕たちで考えました。普段は毎月第4日曜日に集まっていろいろ話し合っています。結成当初はおとなの力に頼ることもあったけど、今は会議の形式やテーマについても自分たちで進められるようになっています。

□三和さん(高1)



親が子どもを型にはめるのは簡単だけど、子どもの意見がつぶれて個性がなくなると思う。
権利を知ったら子どもがわがままになるというおとながいるけれど、子どもを型にはめようというのは、おとなのわがままじゃないのかな。

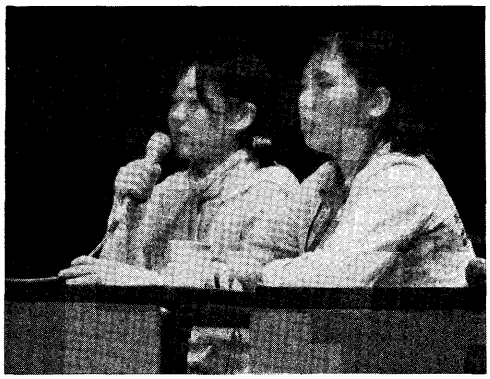
□吉田さん(高1)

お互いが認め合い意見を尊重し、それぞれの働きが十分に生かされ、お互いが嫌な顔をすることなく物事を進めていけるのが、おとなと子どものいい関係だと思います。

■兵庫県神戸市　「神戸フリースクール」

「神戸フリースクール」は、

普段は月1回『子ども会議』でプログラムを決めて、毎日楽しく過ごしています。スポーツとか、公共の場所を借りて遊ぶとか、工作する日とか、借りている畑で農業やお花を植えるなどをしています。また、淡路島の田んぼを借りて米つくりのプログラムを体験させてもらったりしています。夏はPEACE RUN、秋は子午線WALKということもやっています。



□大森さん(14歳)

おとなも子どももいっしょに成長していかな、しょうがないんちゃうかな？不登校も一つの生き方だと思う。その子のペースでのんびりやれるのがおとなと子どものいい関係ってことかもしれない。

□香川さん(14歳)

先生たちは卒業生に「世界に一つだけの花」を贈るとか捧げるとか言うけれど、この歌は子どもが先生に伝えることなのだと思う。その違いに先生たちが気づかない限り、子どもたちは先生を信頼する事は無理だろうと思っています。

■兵庫県川西市　「かわにし子どもネット」

「かわにし子どもネット」は、

私たち子どもネットでは、子どもがしたい事を計画し運営して、おとなはそれができる環境を整えます。主な活動は次の３つです。

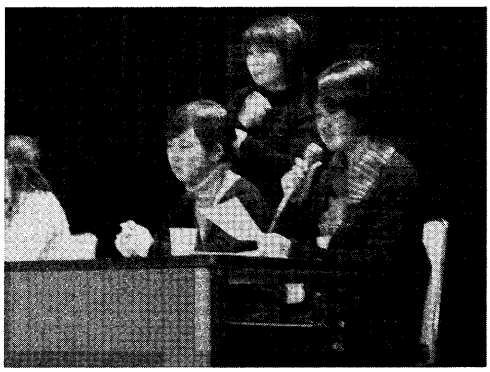
1．クラブ活動―学校の部活と違って「したいこと・場所・日時」は子どもが決めます。

2．子どもネットの集まり―全体的な活動です。毎年夏休みのキャンプや
七夕祭や宿題会。秋には芋掘り、春にはお花見をしますが、権利条約を学ぶ会もあります。

3．子ども人権フォーラム―普段の生活で気になることをテーマに、
市内の子ども、おとな、先生が集まり、子どもの人権について
子どもの視点から考え話し合います。

□野呂さん(高２)

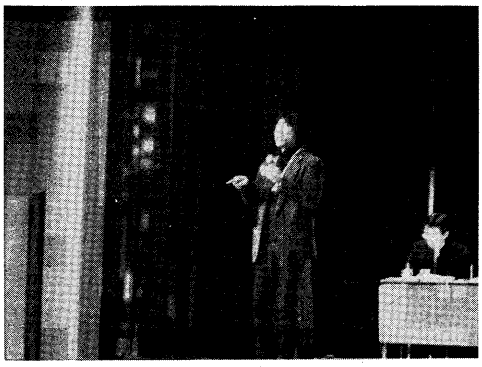
自主的な活動を行なう事そのものが子どもの人権を尊重する事だと考えて活動しています。ここでのおとなと子どもの関係は指導する側のおとなと指導される子ども、ではありません。サポーターのおとなは子どもの意見を尊重してくれて活動の手助けをしてくれます。そんなおとなはいい意味で私たち子どもに影響力があります。おとなの人たちは子どもの考えを知る事ができてお互いに自分自身の世界が広がる、そういうのがいい関係だと思います。



□向井さん(中３)

子どもネットに入ってオンブズパーソン制度を知りました。各地のフォーラムに行ってみると、この制度が川西の象徴と言ってもいいくらいだったとわかります。子どもの味方で身近なおとながいる事を知れば、多くの人が助かったり変ったりできると思います。もっと市民が知って誇りに思って欲しいです。

■各地から訪れた参加者がフロアから



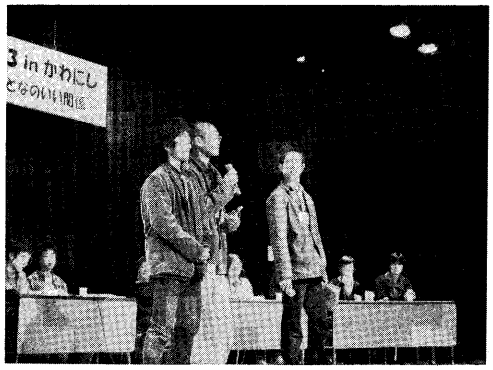
■青森より

青森では、まだ子どもの権利を守る活動を市として考え始めたところです。ねぶたの後ろに権利条約の条文を書いてアピールするという啓蒙の段階です。だんだん子どもたちが自分でやってくれるようになるよう、おとなが一緒にやっていきたいです。かつて子どもだったころの思いを持ちつづけていれば、いい関係が続けられるんじゃないかと思っています。

■千葉より

□三森さん(高２)

千葉県の佐倉市で 2001 年に子どもによる市民のための情報誌『ウェーブさくら』を創刊しました。費用を自分たちで準備しようと親子劇場のお祭でスイカやマシュマロを売ったりしました。その後もつくったものを売ったりカンパをいただいたりして、第１、第２号「戦争と平和」、第３号「福祉」第４号「教育」、第５号「政治」と出してきました。今はちょっと方向性の見直しで立ち止まっていますけれど。



□山浦さん(高２)

子どもの参画ということを考える時、それは気持ちを形にして実現していくことじゃないかと思います。でも家庭や仲間という身近なコミュニティへの参画ということもできていない。この解決策として、以下にあげます。

・『共感』
何を願っているのか話し合う。本音で話せなかったら、
話せないという事から。

・『共有』
何を考えどうしたいかと共感したものを形にするための手段を考え、
ツールを共有する。

・『共同』
手段が決まったらおとなと子どもが一緒に動く。

□山本さん(高２)

去年私たちの実行委員会では、おとなと子どものフォーラム実行委員会が分けられていて、なかなか子どもとおとなの話し合いができませんでした。それは、ある意味おとなの優しさが逆に邪魔をして、子どもとおとなが市民として同じ立場に立てなかったからだと思います。子どもとおとなが同じ立場に立って活動をするとか、市民参加なら、市民と行政が一緒になって共同するということが必要なんじゃないでしょうか。

■滋賀より

子どもの権利を考える子どもワーク会議です。もとはジュニア会議として環境についての活動をしていた人が集まったのでまだ人権のこと、よくわかっていません。でも川西の子どもネットの子たちに会ったり、川西子どもオンブズパーソン事務局を見学させてもらいました。身近なところに子どもの権利があるんだな、学校生活についても子どもの権利っていっぱい考えられることあるんじゃないかなと考えられるようになりました。そのあとおとなと子どものミニフォーラムをして意見を交換しました。今、その考えをまとめて条例をつくろうとしています。身近な生活に役立てられる条例にしたいなと思っています。

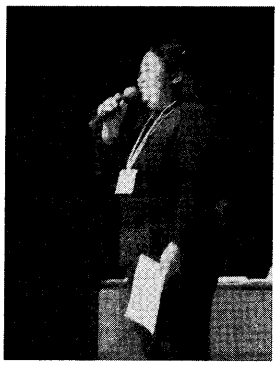
みんなが思っているおとなと子どものいい関係って？（みんなのメッセージ）

・お互い深く関りすぎず、浅く関りすぎずの微妙な関係を一緒に築きましょう。
・相手の事をお互い思って行動できることだと思います。
・違いを認め合って毎日楽しく生活しようとする関係だと思います。
・おとなは子どもの、子どもはおとなの立場に立って両方の心が通じ合える関係が一番いいと思います。
・子どもはもっと主張したいこともあるし、おとなからも忠告してもらいたいと思います。

■愛知より

□加藤さん(高１)

愛知県高浜市で平成13年にひろば委員会ができました。最初はおとなにむけての要望などを話し合っていましたが 14 年には高浜市の小中高生対象にアンケートをしました。「居場所ありますか？」「悩みを親に言えますか？」って。保護者に向けても「子どもに居場所はちゃんとあると思いますか？」ってしました。そこでわかったのは結構おとなと子どもってすれ違っているなということです。例えば「居場所がない、わか



らない」という子どもの意見が多かったのですが、おとなの答えは「自分の家が居場所だろう」と子どものことがわかっていないかな、とちょっと思いました。

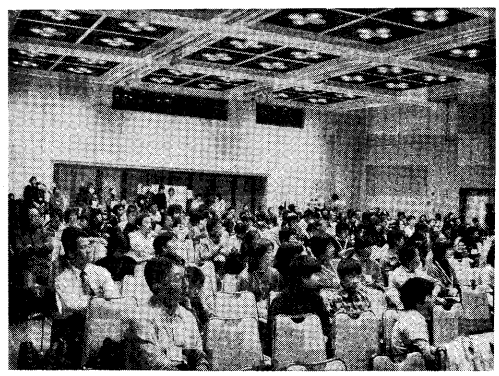
平成15年になって『高浜子ども市民憲章』をつくってきました。1章から8章まで合宿までして自分たちで考えました。言葉の使い方でおとなと意見が違ったこともありましたが、最後までがんばって自分たちの意見を通せました。でも、意見を尊重してくれる人が多いけれど「ちょっとな…」というかたも多いので悲しかったりもします。

これからの活動はまだ決まっていません。メンバーが減るのが少し心配ですが、おとなが「こうしよう！」っていうのはまずないので、いろいろ考えようと思います。

おとなと子どものいい関係って…。わかって欲しい事をはっきり伝えられたらいいなと思います。もっとしっかり話ができたらいいかな。

■かわにし平和キッズ

私たちは平和キッズです。私たちのキャッチフレーズは「戦争で幸せになる人はいない」です。このキャッチフレーズを基にデモや活動にも参加してきました。私たちの思う、子どもとおとなのいい関係は、お互いを信頼し、悩みを打ち明けられるのが本当のおとなと子どものいい関係だと思います。私たち平和キッズはこれからも平和運動に、どんどん参加していきたいです。



←全体会の様子です

全体会　パート２

子どもとおとなの対話と交流

司会：北井さん(高２)・澤田さん(中３)【かわにし子どもネット】・浜田さん

■パート２「子どもとおとなの対話と交流」

パート２では、「子どもとおとなの対話と交流」と題して、子どもとおとなが同じグループになって２つのテーマについて話し合ってもらいました。そして、話し合いの中で出た意見を短冊にまとめました。子どもは自分の意見を話すことができ、おとなは子どもの意見を聴く時間になり、お互いの交流が深まりました。

■浜田さんからのあいさつ

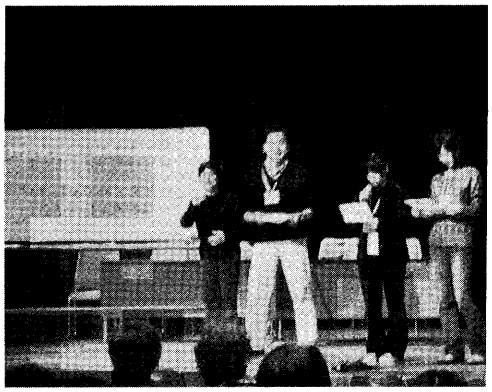
フォーラムのプランを子どもメンバーと一緒に試行錯誤しながら考えてきました。途中、提案したプランが「サブい」と言われたりしながらも、おとなと子どもが一緒になって作ってきました。子どもメンバーが駅前でまいたビラを持ってきてくれた子もいるみたいで、うれしいです。

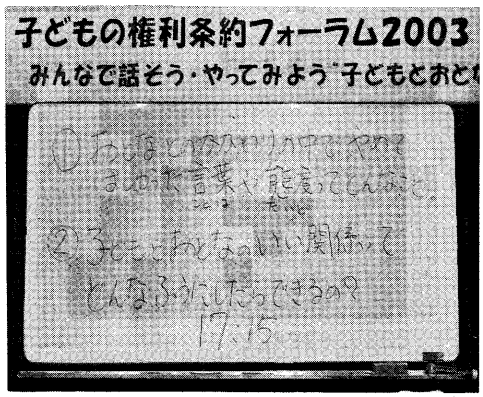
では、

（１）大人とのかかわりの中でやめてほしかった言葉や態度ってどんなこと？

（２）子どもと大人のいい関係ってどんな風にしたらできるの？

というテーマで、グループで話し合ってみてください。





■"子どもとおとなのいい関係"って どんなふうにしたら出来る？

～短冊に書いてもらった参加者からの意見です～

□チャレンジすること。わかりあうために。
（子どもに言ってもわからない。また、おとなに言ってもわからない）
□同じ視点で話し合う。子どもだから(おとなだから)は×
□一人の人間同士として話をする(親として、先生としてではなく)
□お互いの意見を聞き合う！
□マイノリティ(障害者、在日コリアン、在日外国人、部落出身者、女性など)を通して学び、築きあげていくことが重要だと考えます。
□"テキトー"が最良。
□子ども、おとな関係なくちがうと思うことなどを言い合えて話せる。
□近い関係であればあるほど、互いの違いを自覚していること。
私とあなたはお互い大切な存在だけれど、だからといって考えや気持ちもいっしょじゃないことを知っていること、違うことそれがすばらしいこと。
□おとなが一歩引くこと、適当な距離を保つ、見守ること、まかせること。
□お互いに信頼関係を築いていくとことが大事だと思います。
□子どもの願いが社会をかえる。心のつながりを一番大切にする社会を実現することが課題。
子・親(周りのおとな)の関係づくりが原点。
□まず私の話に興味をもってきいてほしい。
□子どもとおとなの垣根を越えるバカの壁を破ろう！そのためには子どもとおとなの対話が大切。
□物理的にも精神的にもお互いの距離を縮め合うこと。
□親と子、先生と子の信じ合うことが大切だと思う。

□その時に応じた距離感を保てること。みんなちがうことを知り合う。
□相談とか聞いてほしい時に、聞いてくれる人がいると、その人と近づけて良い関係になれると思う。
□もっとゆったりつきあう。
□ぼくはおとなと子どものイイ関係は、やっぱり楽しく笑うのが大切だとぼくは思います。
□対話の場をおとなから設け、互いを尊重しながらよい関係をつくる。
□こういう場をもっと増やし、この輪を広げていく。
□気の合う人もいれば合わない人もいる。
今はわかり合えなくてもいつかわかり合えたり、言えなかったことがいえる時がある。

□信じられるといい関係。
　けど甘えすぎたら、いい関係も自分のイイとこもくずれちゃうと思う。
□コミュニケーションが大切☆。自分の意見をきいてもらう。おとなの意見を聞く広い心を持つ。
　お互いを認め合う関係が理想だ！！
□子どものために子どもと共に！
□″人権″の言葉が重たく感じるために、子ども達やおとな達にも入ってこないのではないか！
　子ども社会の中だけでなく、おとな社会にも安心して話を出来る人間関係が
　少なくなっているのではないか！安心できることが大切。

□難しく考えるより″気楽″に考えようよ？
□親子仲良く、お互いに信頼し合う！
□子どもとおとなは分かりあえないから分かり合うための努力をする。
□良心に従って行動したい。
□おとなと子どもが一緒に居る時間をもっと増やす。
□年齢差があっても「ムキ」になって話し合える。
　「おとな気ない」という社会風土がある→なくしたい。
□先生―生徒と同じラインでものごとを考えてくれる先生。
　・他人のことを考えて自分の立場でちゃんと考えてくれる先生。
□向き合うことカナ。子どもだから、おとなだからではなく同じしてんで。
□一番はじめに自分の考えを相手に伝える。
□おとなと子どもに境はいらない。おとなと子どもじゃない人と人なんだから、
　子どもも一人のおとな(人)としてみてほしい。そうしたらいいと思う。
□はなしのできる場づくり。(一緒に体験できるもの)これはおとながつくらないといけない。
　知り合わないと話もしない。
□意見表明の場が欲しい→障害者、もっと小さい子どもはどう扱われる？
　権利条約を広めるのもいいですが、もっと今直面している問題について語ってくれるといいなと。

□子どもの行動にはおとな社会の影響が大きい。
　おとながどんな努力をすれば子どもにいいものが残せるのだろうか。
　それを求め続けて活動したいと思います。
□困っている、悩んでる人がまわりにいたら助けてあげる！
″信頼関係″を築く。
□出逢いと居場所が大切。
□何人かちゃんと自分の話を聞いてくれるヒトをつくる。
　話を聞いてもらうだけで楽になる時もある！
□″呼吸″できる環境っていい。
□子どもの気持ちを話せる場所が減ってきている。
□どんなふうにしたら出来る？
　・話し合う時自分の経験を押しつけない。
　・ふざけないで真剣に話を聞いてほしい。
　・自分のことを好きでいれるように。

・否定的なことも一度受け入れてから話し合う。
・おとなも子どもも一人の人間として話をする→手紙でやりとりをしたりする。
□つかずはなれず一定の距離を保つ。
□子どもとかおとなとか分けずに、同じ人間として意見を出していく。
□おとな(先生)が真剣に聞いてくれて、アドバイスをしてくれて、あとどうなったか最後まで関心を持ってくれる。
□関わりをあきらめないで、何度も何度も働きかけていくこと子どもに「この人ダメだ」ってあきらめられないようにしたいです。
□子どももおとなも安心して話せるといいのになあ～時間をたっぷり、ゆっくりかけて。
□とにかく話すこと話を聞くことがだいじ。もしも遠くにいるなら電話やメールで。

□話をしているとき、うなずきながらしっかり聞く。
□「子ども」「おとな」の言葉概念自体なくすこと。
ひとりの人間対ひとりの人間という関係を紡ぐ努力をすることがまず必要。
□子どもの言うことややることをできるだけ信用して見守ってくれる関係。
□おとなも子どもも我慢している。親はその親・周囲・近所の目からの板挟み。
親ががんばっていることも認めてよ→言ってくれないとわからない。
まずお互いを理解することが大切。
そして、言い合おうよ。
どうしたら親と子が対話できるのかな？
考えを変えろというのはむずかしい。
様々な考えがある、という理解をしてくれれば。
□答えはすぐに見つからない。すぐに出す必要もない。
悩み続けること、考え続けること、それも大事だと思う。それが大切だと思う。
□貴女・貴男のままで。
□互いに聴く話せる関係づくり。互いに寄り添えれば…
□子どももおとなもいっしょにこうやって悩み考え続けていれば…
□お互いに分かち合う、家族で話し合う。
□助けてほしい時は助けてほしい。

□「イヤだな、へんだなって思った」ということが、伝えられる関係―受け入れあえる。
相手のことを聞こうとする姿勢。
□本音で語り合う、語り合える関係をつくる！
□もめたときは第三者に入ってもらう、たとえばオンブズパーソンみたいに！
□信頼すること、話をすること、場や機会を仕組むこと。

□自分の立場を相手に押しつけない。(親だから～)
　自然なままにつくられるからイイ関係。(知らない人とは難しい？)
　話を聞いてもらうから聞いてあげる。
□最後まで人の話を聞く。
　ゆっくり生きる。(自分自身が豊かな生き方をする)
□最後まで話を聞く。
　スケジュールでない子ども。時間を共有するといいな。

□いろんな方の話が聞けてよかったです。話し合ったことは、おとな・子どもと区別するのではなく、みんな人間だということ。いじめは学校だけでなく、職場にもあります。
　一人の人間であることを理解して相手(それが子どもでも)のことを考えるべきだと思いました。
　もっと柔らかい言葉でみんなが人権を考えられたらと思います。
□(おとな)自分の子ども時代のことを思い出して、
　うれしかったこと、いやだったことを腹を割って話し合う。
□ありがとうとごめんね、がだいじなことば。
　ちかいこととおいことのちょうどいい点でいられたらいい。
□子どもにも選挙権よこせ！おとながしんどい世の中なら子どもはもっとしんどいのだ。
□自分も他人も尊重できるのが良い関係。共通の興味を通じて、同じ仲間として話をする。
　私の場合は音楽。
□東京は上下関係でなく、ななめの関係である。上下関係では命令口調になってしまう。
　一人の時は素直に聞いてくれるが、３人・４人となると反抗する。
　おとなも子どもの「人」という輪の中にいるのだから、
　おとなは「おとな」、子どもは「子ども」という輪を作ってはいけないと思う。
　「人」という字は「／」を「＼」が支えている形になっている。
　「／」や「＼」を「おとな」や「子ども」という考え方にすることによって、
　この二つを支え合ったり支えたりすることになり、いい関係になると思う。
　(このような場所や機会をたくさん設けていけばいいと思う)

□おたがいにあやまりあう。
□メディアやまわりが少年事件に対して過敏に反応しすぎている。
　確かに悪いことをした人だけど、その少年達の人権をもっと考えてあげるべき。
□自分の思いを伝えつつも、相手の気持ちも尊重する！おもいやり。
□経験から生まれる固定観念も決して悪いものではない。
　ただそれを子どもに押しつけるのはよくなくて、子どももおとなもお互いに受け止めることから始めてはどうか？相手の話を受け止める心の余裕を。じっくりゆっくりの対話！大切。
□とことん話し合う。でも差別的、暴力的な発言は子どももおとなもやめよう。

□子どもを信頼して待つ。
　おとなが１本の理念を持ち、そこはゆがめない。
□一緒に遊ぶこと。
　相手の気持ちをわかりあうこと、信頼。
□おとなと子どもの距離をせばめる。
　お互い信頼し合う、何でも話せる。
　しゃべることが大切！
□「みんな違ってみんないい」をおとなも子どももにんげんどうしで思えたら
　いいなとおもいます。

□老若男女、尊敬できる人を尊敬して、わからない人には教えて。
□お互いに話をする話をもっと聞く！
□子どもをひとりの「人」として認める。
□地域の中で声をかけづらい→日頃からの関係を築いておく。
　わざわざフォーラムなどを開かないでも日常的に話せる関係になる。
　おこらないで「～だから～してほしい」と伝える。
□いい関係って？
　・楽しい
　・不愉快じゃない
　・良くも悪くも
　・近い存在
　・頭ごなしに否定しない
　・がまんしない
　・ゆとりがある
　・存在を認め合う
　・何でもしゃべれる
□困ったことがあったら、すぐ対応して！
　２回目のらくがきはいやだ。
□気持ちを伝える。伝えずに八つ当たりしない。
□話の時間がほしいなァ～！
□最後まで話を聴く、ゆったり・ゆっくり時間を共有。
□おとなも子どもも何でも話せる人がいるといいナ。相談できる場所は大事。
□子どものことに気づいてくれるおとなが身近に必要！オンブズパーソンみたいな。
□話のできるきっかけをおとながどうつくるか→継続性をもって
　尊敬できるおとなが身近にいる
　子どもとおとな＝上下関係ではない
　経験を積んだおとなと子ども
　　‖
　師と弟というところもあり
□【子ども側】固定観念で決めつけないで。
　　↑↓
　【おとな側】経験からくるもののよさ

□親子だと…冷静になりにくくなる…分身のような感じで。

ひとりの人として、子どもとおとなで向かい合える状況だと冷静になれる。

□今話をきいてもらえる人が少ない、社会が忙しすぎる、子どもの本質は変わらない。

↓

チャイルドラインなど聴いてもらえるだけでも厳しい状況が少しすくわれる。

↓

子どもを取り巻くおとな同士の対話をもって。子どもとおとなも向き合う。

□力づくも誘導もおとなの型にはめられるのはいやなのかな？

□学校という中では、規則を守る。そうすれば社会に出たときに何らかの形で役に立つ、
小さなグループ(クラス)だからこそ意見が言える、ルールも守れる。

□えこひいきしない先生がいる学校。

■おとなとの関わりの中でやめてほしい言葉や態度ってどんなこと？

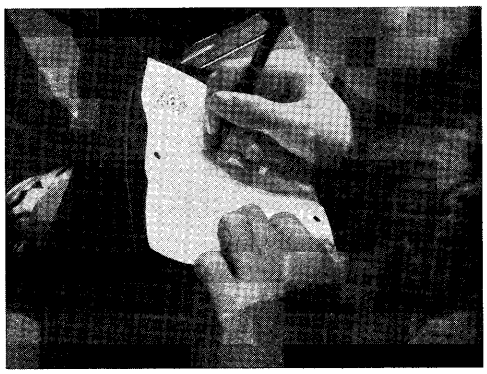
□子どものくせにえらそうなこというな！
勉強しろ！
たばこを子どもの前ですうな！

□子どもとおとなによって態度がちがう先生。

□「なんで？」「どうして？」って聞かないでほしい。

□もっと自分の子信じてほしい。
親が八つ当たりしてくる。

□「子どものくせに！」とか「どーせおとなにはわからへんわ！」とか話すのをあきらめない！



□あんまり子どもにおこらないでほしい(すごく悪いことをしたら、少しはおこってもいいと思う)

□上からものを言わない！

□先生、ぼくの意見をちゃんと聞いて下さい！

□学校きらい！！たのしい授業してくれる先生求むっ！

□親が心配ばかりしすぎ(勉強・宿題)
部屋の掃除の時、学校のプリント等をみる
障害者に対し暴言をはく。

□先生なぐらないでほしい！

□学校でいやなこと
・先生がひいき、無視(生徒を)
・生徒(女子)のグループ化
・友達との関係！

□先生・体罰、おせっかい
・わかる授業
・ひみつをまもってくれない
・信頼できない
・内申書

□校長先生
・「子どもだから」甘く見てる
・逆らえない
・先生がお気に入りの生徒
・名前でランク付ける。

□やりたいことを邪魔されない学校。

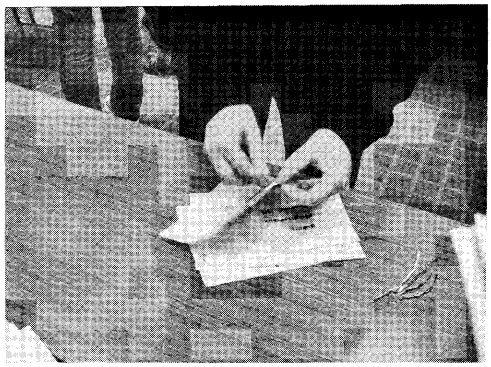
□勉強優先で話を聴いてくれない。
相談にのってほしい！

□親が心配しすぎていろいろと言われる＝世話やきすぎる

→もっと自由に
親が掃除する時にテストやノートを見る。
乗物で足を広げて座る→他人の迷惑を考えない。
□生徒をワクにはめないワクをつくらない。
□勉強やろうと思ってる時にやりなさいって言われた。
研修会等で子どもになんかできないと言われた。
「いらない」等絶対に言ってはいけないことがあると思う。
義務と権利のこと。
勉強できないのにボランティアやっていいのと言われた。
□おとなから言われたことをのせられて言ってしまった…くやしい―
□同じ学校というだけで店員からいやな目で見られる。
□学校と世間のギャップが激しい。
ex.16 でバイクの免許を取っていいのに、学校では禁止されている。
□子どもの意見を聞いてくれて、反映してくれる先生がいない。
□「なんで」って批判でも心配してでも言わないでほしい。そうなのはそうなんだから。
□報道の仕方がだめ(おかしい)
恐怖をあおるものがある！
おとなの起こした事件より子どもの起こした事件の方が大きく報道されている！
□先生がえらそう。
先生の言ってることがちがう、言っていることとやってることがちがう。
何で勉強しなあかんかを教えてほしい。
□お父さんは絶対的存在といわれてたのがイヤでした　素直になりなさいと言われてた。
「早くし―」るすばんしてるときに「これしといて―」とおてつだいをいわれる。
「弟はせんでいいからあんたらし―」と言われたとき。おとなからごめんねって言われたことある？
我が子には甘えてしまいついつい言い過ぎる。
□ありがとう！とかをちゃんと言う。
少しは素直になりなさい、お父さんはぜったい。ときどき出かけたりするといい。
□「女だから」と進路を決めさせられた。
ピアノを無理矢理ならわされかけた。
兄だけがいろいろ買ってもらえた。
親に対して「違うんじゃないの！」と思っても言えないことがあった。
言葉で言われないけど感じる親の期待の中でモラトリアムだった。
親が強要せず「すべてお前に任せるから」というのでかえってプレッシャーになった。
□先生がキレた。
物にあたる。
他の学校と比べる。
いろんなことに理解のある先生がいい。
そんな先生が増えてほしい。

□休み時間は、読書とか友達とかと遊んでいると楽しい。

部活が楽しい。
先生が生徒同士のいざこざにかかわりたくない。
女子と男子で校則が違う。(靴、靴下、髪)



□親に
・学校での出来事(悩み)を話しても聞き流される。
・「子どものくせに！しなくてもいい」と言われる。
知っているのに何もしない先生。
うるさくしてる人がいるのに。
不登校してる子がいるのに。
その他(子どもの居場所、少年犯罪、ストレス解消法など)

■その他(子どもの居場所、少年犯罪、ストレス解消法など)

□お金を使わずに遊べる場所→自然を利用したアソビ。
古い物を再利用して作る。(ブランコなど)
□何でも自由にできる場所。
□公園→やねがあればいいのに。
空き教室利用して…
□小３まで学校の後「□□クラブ」といって、子どもを預かり遊ぶ＆おやつ、遊具で遊び放題。
□学校で放課後、チャンゴのサークル
□ゆめパーク
・午前９時～午後９時
・スタジオ
・フリースクール
・ほけんしつ
・井戸
・スタッフ付き
・いろんな人くる
・自由に入れる
・だれでも使える
・きんえん

□かえってやること
子どもの声
・ゲーム
・宿題
・勉強

おとなの声
・運動場で遊ぶ
・山の中で遊ぶ
・学童保育
・公園で遊ぶ

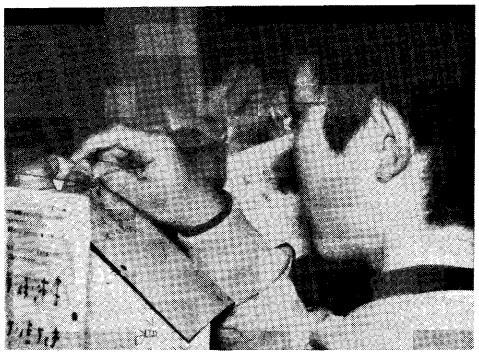
□ストレス解消法
・やつあたり(ものに)
・こわしていいものをこわす
→後悔しないか？いいわけするか…
もともと壊れていいものだから…

□Deep love の本を読み感激する。

先生が言うよりも小説で読んだ方がいい。
少年犯罪に親があやまるべきか？

□友だちにさそわれて。
万引き(本屋・駄菓子屋)おおい！
ゆうわく
援助交際→おとながそういう場所をつくっている。
□少年はうざい(みぢかな)
・万引き→精神的苦痛で
・スカートを切られる
・ストーカー
・たばこ・お酒 etc

□長崎の事件のこと…
・少年なのでつみにならないのが疑問。
・学校でいやなことがあったかも。
・報道はどこまで事実を伝えているのだろう。
□本人がどうしたらいいか、どうしたら責任をとれるか
つきつめて考えてみた方がいい。
□ストレスはよくない。
はきだし口がいるよね。
□ストレスがたまったら、ストレスを解消する(>_<)
スポーツ、趣味、おしゃべり、お菓子をいっぱい食べる etc
□ストレス解消法
・口で発散
・部活(バスケット)
・走る
・カラオケ(ほんとは禁止)
・ツタヤに行く
・よく考えてみる。おちつくこと
□アスペルガー症候群のこと



□万引きについて
・けっこう周りでしている。
・見たことがある。
・見て、言ったけどべつにいいじゃん、というかんじだった。
□なんで万引きをしてしまうのか？
・やろうと思えばできてしまう。
・してはいけないけどしたい衝動がおこる場合もある。
→それでしか解消できないもの？

□万引きをしてしまっても、それは自分自身でえらんだのなら、

たとえばストレス解消の一つの方法とみとめてあげることはできないの？

→それは犯罪では

□万引きしてもストレスは解消できない。

万引きしても結局失うものの方が大きい。

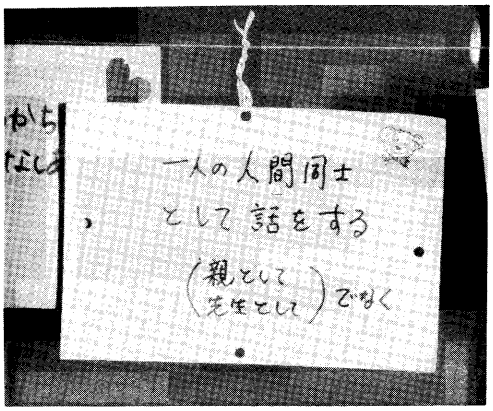
本人が責任をとればよい。

□たばこのこと…

・隠れてとかじゃなく校内とかでも堂々とすっている。

・友達のすすめでことわれない。

・やめたくてもやめられないということもある。



□ここにくるまでは、同じくらいか少し上の年齢の人が罪を犯すと「変な人だ」や「なんでするんだ？」と思っていたけど、ここに来て真剣に考えてみると、罪を犯した人にもその人なりの事情があるんだと思いました。

そういう意味ではその人もかわいそうと思いました。

□なぜ上と下ができてしまうのか？

人をころしてしまう人にもつらいことがあってころしてしまっている！

せんそうで人をたくさんころせばえいゆうだが、

ふつうに人を殺せば殺人者になってしまう、なぜだろう？

□みんな同じ人間やのに何で「身分の差」みたいな人ができてしまうんやろう？

人は生きていくために生命をうばいます。

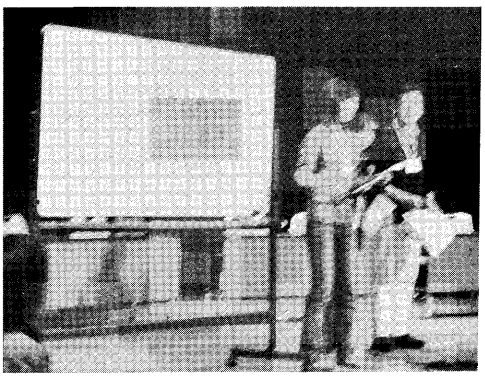
動物の肉を食べるために動物をころす。野菜を食べるために植物をころす。

だからうばった生命の分だけ、自分ががんばって生きていかなければいけないと思う。

■司会者のあいさつ

□澤田さん（中３：かわにし子どもネット）

こんなにたくさん子どもの意見を聞いてくれるおとなの人がいるんだな、と思いました。グループで話し合ったときのおとなの人は、ひとつひとつの意見を大切にしてくれて、うれしかったです。



□北井さん（高２：かわにし子どもネット）

私はいっぱい意見を聴いてもらいました。おとなの人の意見を聴く余裕がこの時間の中ではなかったけれども、これからお互いを認め合って、関係を築いていきたいと思います。